

# 利尻礼文サロベツ国立公園

National Parks of Japan



国立公園とは

国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。

北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで35の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。

是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。



特長

利尻山が生み出す多彩な景観、  
花咲き誇る最北の公園  
— 北辺の島と原野 華麗な花園と豊かな海 —

利尻礼文サロベツ国立公園は、山岳、お花畑、海食崖、湿原、海岸砂丘など、変化に富んだ景観を誇る日本最北の国立公園です。

利尻山は、利尻富士とも呼ばれるコニーデ型の美しい山で、公園のシンボリックな存在です。礼文島では、レブンアツモリソウなどの貴重な植物を含む高山植物のお花畑を低地で見ることができます。抜海、稚咲内海岸では、帯状に発達した数列の砂丘の間に湖沼が点在し、ミスナラ、トドマツの砂丘林とともに珍しい景観を呈しています。サロベツ原野は、泥炭地の上に日本最大級の高層湿原が広がっており、またガンやカモなどの野鳥の渡りの重要な中継地にもなっています。

【指定年月日】昭和49年9月20日 【面積】24,512ha  
【関係都道府県】北海道



礼文島から望む利尻山



地形 地質 景観

利尻島は、北海道北西部の海岸から約20km離れた、標高1,721mの利尻山からなる外周約60kmの円錐形の火山島です。海岸からそびえ立つ姿は本公園のシンボリックな存在であり、風景の中心となっています。中腹以上では侵食が進み、深い谷と鋭い尾根が発達し、荒々しい姿を呈している一方で、山麓には湖沼や湿原が点在し、また湧水も多く見られます。

礼文島は、利尻島の北西約10kmに位置する、東西約8km、南北約29kmの細長い島です。島の西側は断崖や奇岩の続く海食崖地形となっている一方で、西側から東側に向かって緩やかな起伏を描いて広がる草原は、高山植物の宝庫となっています。



利尻山



礼文島西海岸・澄海岬

海岸砂丘地域は、海岸線に平行しておよそ40kmにわたり数列の砂丘林が帯状に発達しています。また、砂丘林内には多数の湖沼群が存在し、特異な景観を有しています。

サロベツ原野は、サロベツ川流域に形成された広大な泥炭地です。6,000年とも言われる時を経て、植物の残遺体が堆積した泥炭の上に湿原植生が広がっています。釧路湿原や尾瀬ヶ原とともに、我が国に残る代表的な湿原であり、高層湿原としては日本最大の広さを有しています。また、国内最大級の浮島のある瞳沼や大規模な湿地溝の発達が見られるなど、国内では他に類を見ない規模の大きい湿原景観を呈しています。



海岸砂丘林内の湖沼群



サロベツ原野【写真提供:NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク】



取り組み

— 利尻山登山道の保全 —

利尻山の上部は火山性の非常に脆い土で形成されており、登山者の踏みつけなどによる侵食が進んでいます。この対策として、行政機関や地元関係者で協議会を組織し、土留めの設置や植生ネットの敷設などの登山道の補修作業に取り組んでいます。また平成26年からは「利尻山コマドリプロジェクト」がスタートし、バッジの売上金を登山道保全に活用する取り組みも進められています。

— 礼文島自然歩道の協働管理 —

礼文島では、行政機関や地元関係者が協力しながら歩道管理を行っています。関係者全員で話し合った利用のルールやコースの難易度などに関する情報をホームページで統一的に発信することで、自然環境の保全や利用者の安全確保をより一層図っていく取り組みが進められています。

— サロベツ自然再生事業 —

サロベツ地域の泥炭地では、農地造成や河川改修などの多様な人間活動の影響により湿原の乾燥化が進み、高層湿原の植生が損なわれるなどの問題が指摘されています。そこで、学識経験者、行政機関、地元の酪農家などの連携のもと、湿原の乾燥化対策、泥炭採掘跡地の再生などの自然再生事業を実施しています。



利尻山登山道の保全

## 連絡先一覧

稚内自然保護官事務所  
〒097-8527 北海道稚内市末広5-6-1 稚内地方合同庁舎  
| TEL | 0162-33-1100  
E-mail:RO-WAKKANAI@env.go.jp

北海道地方環境事務所  
〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西2丁目  
札幌第1合同庁舎3F  
| TEL | 011-299-1950  
| URL | <https://hokkaido.env.go.jp/>

利尻礼文サロベツ国立公園サイト



【VR 360°】  
Welcome to 利尻礼文サロベツ国立公園



火山情報をご確認ください  
[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity\\_info/116.html](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/activity_info/116.html)



発行者：環境省  
発行年：2024年

※ 見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。



植物 動物 生態系

利尻・礼文両島とも、寒冷な気候条件と孤島であるという地理的条件から、独自の進化を遂げた固有の植物が多く生育しています。利尻山の山頂部周辺には固有種であるリシリヒナゲシのほか、国内では利尻山でしか見られないボタンキンバイなどが生育しています。礼文島にはレブンアツモリソウやレブンコザクラなど数多くの固有種や高山植物が生育し、「花の浮島」を彩ります。またサロベツ原野には、夏になるとエゾカンゾウやツルクケモモ、モウセンゴケなどの湿原植物が広大な湿原いっぱい咲き誇り、訪れる多くの観光客を魅了しています。



リシリヒナゲシ

ボタンキンバイ

レブンアツモリソウ



レブンコザクラ

レブンススキソウ

エゾカンゾウ

サロベツ原野と海岸の砂丘林帯には、世界最小の哺乳類の1つであるトウキョウトガリネズミが生息しているほか、爬虫類では国内で北海道北部だけに分布しているコモチカナヘビが生息しています。また、シマアオジなどの貴重な繁殖地があり、近年ではタンチョウの営巣も確認されています。利尻島、礼文島においてもオジロワシ、クマガラ、ツメナガセキレイなどの希少な野鳥の生息が確認されており、またサロベツ原野と同様にコハクチョウなどの渡りの重要な中継地となっています。



シマアオジ

タンチョウ

オジロワシ



クマガラ

ツメナガセキレイ

コモチカナヘビ

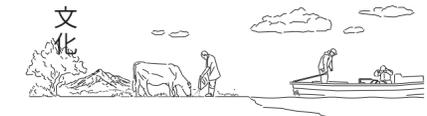
利尻山は独立峰という特性から、標高による植生の変化がわかりやすく観察できます。海岸から少し登るとトドマツを主とする針広混交林に移行し、標高500mより上部はダケカンバやミヤマハンノキなどの樹林帯、1,100m以上になるとハイマツ帯や高山植物のお花畑が広がります。礼文島では、寒冷な気候条件と強い偏西風により、島全体に風衝草原が形成され、高山植生が海拔0mから出現します。夏季には礼文島固有種を含む多くの花々が島一帯に咲き競うことから、別名「花の浮島」とも呼ばれています。

サロベツ原野には日本最大級の高層湿原が広がるとともに、大小の湖沼が点在し、オオヒシクイなどの水鳥をはじめとした多くの野鳥の重要な生息地となっています。そのため、平成17年にラムサール条約湿地に登録され、さらにはBirdLife International（鳥類の生息環境の保護を目的に活動する国際環境NGO）による重要野鳥生息地にも選定されています。



礼文島の風衝草原

サロベツ原野に飛来するオオヒシクイ



文化

利尻・礼文両島周辺の海域は、高級コンプとして名高いリシリコンプの主産地であり、島中で行われるコンプ干しの光景は夏の風物詩となっています。またウニ漁も盛んに行われており、島の主要な水産資源となっています。一方、本土側の内陸部は北海道の中でも有数の大規模な酪農地帯となっており、生産された牛乳やバター製品は、北海道をはじめ全国各地に出荷されています。またサロベツ湿原では、平成14年まで泥炭採掘が行われており、採掘された泥炭は土壌改良材や燃料として加工され、各地に出荷されていました。現在、採掘跡地では植生回復を目指す自然再生の取り組みが進められています。



利尻島のコンプ干し

泥炭採掘跡地



サロベツ原野の酪農

## 国立公園の利用上のマナー

多くの方々に楽しく利用していただくために、国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守ってください。

- ゴミを捨てないでください
- 花や植物を採らないでください
- 野生動物に餌を与えないでください
- 歩行中禁煙
- たき火は指定の場所で行いましょう

利尻山登山では以下の「利尻ルール」を守りましょう。

- ・携帯トイレを使う  
携帯トイレは島内各所で購入できません。登山道の途中には使用のための専用ブースが、登山口には使用後の回収ブースが設けられています。
- ・ストックにキャップをつける  
ストックの鋭い先端は崩れやすい土壌を掘り起こし、崩落を促進してしまいます。ストックを使用する場合は、先端にキャップを付けるようにしましょう。
- ・植物の上に座らない、踏み込まない  
植物を傷つけないよう、また土壌の侵食を少しでも防ぐため、歩道から外れないようにしましょう。

01 スコトン岬 | A3



島の最北に位置し、ゴロタ岬、澄海岬を巡るトレッキングコースの起点となっています。青く澄んだ海と目の前に浮かぶトド島の景色に心癒やされる場所です。

02 レブナツモリソウ群生地 | A3



レブナツモリソウは種の保存法による特定国内希少野生動植物種に指定されており、礼文島内でも生育している場所は限られています。群生地では本道から間近にレブナツモリソウを見ることができます。

03 桃台猫台 | A5



巨大な桃岩や洋上に立つ猫岩などの特徴的な形をした奇岩と美しい海を眺めることができる絶景スポットです。

04 桃岩歩道 | A5



礼文島南部のトレッキングコースで、レブナツモリソウやレブナツモリソウなどのお花畑や、美しい海と断崖の景観を楽しむことができます。

05 見返台園地 | B6



利尻山の畜形コース入口に位置し、10分ほど登った展望台からは間近にそびえ立つ利尻山と眼下に広がる日本海の景色を眺めることができます。

06 甘露泉水 | C5



甘露泉水は、利尻山の鷺泊コース三合目付近に湧き出る湧水で、名水百選にも選ばれた日本最北端の名水です。

07 利尻山 | C6



利尻山の登山道は、北岸の鷺泊と西岸の畜形からの2コースがあり、どちらも山頂までの所要時間は約5時間です。洋上の独立峰ならではの海をバックにしたダイナミックな登山を楽しむことができます。また上部では高山植物のお花畑が疲れを癒やしてくれます。

【注意】○登山の際は「利尻ルール」（表面「国立公園の利用上のマナー」参照）を守りましょう。○崩壊の激しい山頂部付近はガレ場やせ尾根が続くため、落石や転倒に注意してください。○畜形コースの三峯山より上部には急な岩場等の危険箇所があり、通行には注意が必要です。

08 姫沼 | C5



鷺泊港から車で10分ほどの位置にあり、森に囲まれた静かな湖畔を歩いて一周することができます。またクマガラをはじめ多くの野鳥が生息しており、バードウォッチングを楽しむこともできます。

09 オタトマリ沼 | D6



島の南東に位置し、湖面に映る利尻山を眺めながら湖畔を一周することができます。駐車場には売店もあり、島の主要な観光地の1つとなっています。

10 浜勇知園地 | D3



道道106号線沿いオロロラインに位置し、沼の周りを散策できるほか、休憩所の屋上からは日本海を挟んで浮かぶ利尻山の景観を楽しむことができます。

11 サロベツ湿原 | E4



1周約1kmの木道から、夏には一面に咲き誇るエゾカンゾウを楽しむことができます。またツルコケモモやモウセンゴケなど、高層湿原を代表する小さな湿原植物たちの姿も見ることができます。

12 パンケ沼園地 | E5



サロベツ原野最大の沼であるパンケ沼周辺では、渡りの時期に多くの水鳥を観察できるほか、沼越しに利尻山を眺めることができます。

Information 施設案内



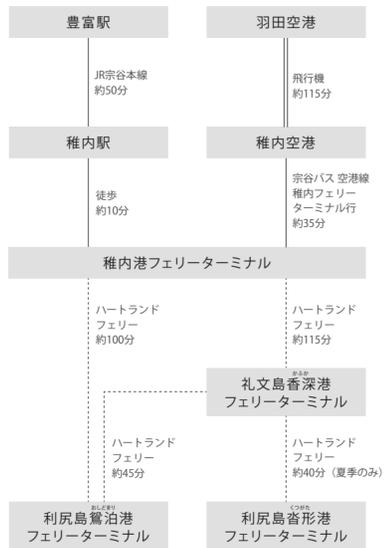
幌延ビジターセンター  
〒098-3228  
北海道天塩郡幌延町字下沼  
[TEL] 01632-5-2077  
[開館期間] 5-10月  
(冬期間閉鎖:11-4月)  
[開館時間] 9:00-17:00  
[休館日] 開館期間中無休



サロベツ湿原センター  
〒098-4100  
北海道天塩郡豊富町上サロベツ  
[TEL] 0162-82-3232  
[開館時間] 5-10月 9:00-17:00  
11-4月 10:00-16:00  
[休館日] 5-10月 無休  
11-4月 月曜日

※開館期間・開館時間など変更する場合があります。最新の情報は各施設にお問い合わせください。

Access 交通アクセス



※アクセスルートは一例です。各区分の所要時間は目安です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。



B 礼文島・利尻島

A サロベツ

※詳細な区域確認等に当たっては、担当の環境省自然保護官事務所等にお問い合わせください。